

朝日新聞 「三重のけいざい ひと息コラム」

掲載日 2022年8月15日

タイトル 地域の課題解決 高校生が挑む

執筆者 百五総合研究所 奥田 千夏

7月末に第7回全国高校生SBP交流フェアの1次審査がオンラインで開催された。SBPは「ソーシャルビジネスプロジェクト」の略称で、高校生らがビジネスの手法を用いて地域の課題解決を目指す取り組みだ。交流フェアは、日頃の活動を発表し、専門家が地域貢献度などを評価する年に一度の全国大会で、当社もこれを支援している。今年は24団体が出場し、県内からは6校が出場した。

SBPは2013年に南伊勢高校の南勢校舎に通う生徒たちが始めた。講演会で相可高校の生徒が地域活性化を目的にレストラン「まごの店」の運営に挑戦した話を聞き、自分たちも地域を盛り上げた

いと模索。教員、役場、地域の大人を巻き込み、地元産品のギフトセット開発などを実現した。取り組みは課題を抱える他地域の共感を呼び、今では全国で約80団体がSBP活動を行っている。

8月20日には、1次審査で選ばれた6校が伊勢市で開催される決勝に進む。県内からは、相可高校農業クラブが、柿やミカンなどの地元農産物を原料に地域企業と連携して化粧品を開発した取り組みが評価され、決勝に進出する。

若者が地域の課題を自分事とし、ビジネスの視点を持つて向き合う取り組みは、未来を拓く素晴らしい人材づくりの場であると大きな期待を寄せている。